

授業名： 子ども家庭支援論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
細川 梢	児童福祉施設 7年勤務	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 家庭とは何か、現在の子育て家庭の社会的状況から家庭支援の必要性について理解する。また、子育て家庭の多様なニーズとその支援体制、社会資源について学ぶ。					【受講して得られる力】 考え抜く力 生活援助技術 相談支援技術		
【学習目標(到達目標)】 ①家庭の意義とその機能について理解する。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 ③子育て家庭の支援体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		家庭を支援するとはどういうことなのか、映像を通して、家庭支援の必要性を考える。				
2	家庭の意義		家族と家庭の違い、family identityを考える。				
3	家庭支援の必要性		現代の社会背景などから家庭を支援する意味を理解する。				
4	保育士が行う家庭支援の原理		保育現場での家庭支援の展開過程を理解する。				
5	男女共同参画社会とワークライフバランス		女性の社会進出やジェンダーに関する問題とワークライフバランスを理解する。				
6	父親と子育て		性別役割分業と父親の育児の実態を理解する。				
7	父親と子育て		映像を通して、男性の子育てと関わり方を考える。				
8	子育て家庭のための社会資源		子育て家庭が利用することのできる社会資源について理解する。				
9	子育て支援施策と次世代育成支援施策		子育て支援のための施策の概要を理解する。				
10	多様な家庭とその支援		貧困家庭・ひとり親家庭の映像を通して現状を知り、保育者としての姿勢や支援を考える。				
11	多様な家庭とその支援		ステップファミリーの状況を知り、その家庭の支援を考える。				
12	多様な家庭とその支援		外国にルーツをもつ家庭の状況とその支援について映像を通して知り、その家庭の支援内容を考える。				
13	多様な家庭とその支援		DV被害者とその子どもについて、映像を通して理解を深め、支援方法を考える。				
14	多様な家庭とその支援		障害のある子どもの子育てについて、映像を通して理解を深める。				
15	多様な家庭とその支援		障害のある保護者の子育てを映像を通して知り、その家庭の支援方法を考える。				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	50%	レポート	30%
				受講態度	20%		
【教科書】保育と子ども家庭支援論(みらい)							
【参考書】最新保育士養成講座第3巻 子ども家庭福祉(全社協)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業で学習した「家庭」の該当箇所の教科書と参考書の部分を読んでおきましょう。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 保育者論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
細川 梢	児童福祉施設 7年勤務	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 保育者の役割や、保育士の責務を理解する。さらに、専門職として、子どもを見る柔軟な視点を養い、生涯成長する保育士であると認識することを目的とする。					【受講して得られる力】 考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 相談支援技術		
【学習目標(到達目標)】 ①保育者の役割と倫理について理解する。 ②保育士の制度的な位置づけを理解する。 ③保育士の専門性について考察し、理解する。 ④保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。							
【履修上の注意】 1年次に履修した「保育原理」のノートを使って講義を展開するため、ノートを必ず持参してください。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	保育者の役割再考		映像を通して、現代の子育ての背景を理解し、保育者の役割を再考する。				
2	保育者の役割		保育所保育指針による保育者の専門性から、保育士が求められている知識・技術を理解する。				
3	保育者の倫理と制度		全国保育士会倫理綱領による保育士の倫理を具体的に理解する。欠格事由や罰則規定を理解する。				
4	子どもの権利擁護と倫理的ジレンマ		保育場面における子どもの権利擁護とは何かを、実習体験から考える。倫理的ジレンマの解消法を理解する。				
5	生命倫理		事例や映像を通して、生命倫理について考える。				
6	養護と教育の一体性		子ども達の生活する映像から、人的環境としての保育者の役割を理解する。				
7	養護と教育の一体性		子どもの育ちを考えた保育とは何かを、映像を通して考える。				
8	保護者に対する支援		子どもの最善の利益を考えた生活と現在の子育て家庭の生活について、映像を通して再考し、子どもの育ちを考える。				
9	保育者の姿勢		保育所保育指針における、保育の環境の意味について理解を深め、環境に込める保育者の願いを映像を通して考える。				
10	保育者の資質・能力		実際の子どもの姿から、保育士としての子どもへ向けるまなざしと姿勢を理解する。				
11	保育者の資質・能力		子どもの疑問やつぶやきから、子どもから学ぶ姿勢を理解する。				
12	保育者の資質・能力		保育者に求められる3つの資質・能力を把握し、映像を通して具体的な場面から理解を深める。				
13	保育者の育ち		初任者の発達段階を知り、今後の保育者像を具体的に理解する。				
14	保育者の育ち		子どもの育つ条件と保育者が育つ環境について、映像を通して理解する。				
15	保育者のキャリア形成		保育者としてのキャリアアップイメージを体験し、理解する。				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	50%	小テスト	10%
				受講態度	40%		
【教科書】今に生きる保育者論 第4版(みらい)							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 授業で学習した部分に相当する箇所の教科書を読んでおきましょう。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 子ども家庭支援の心理学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
小坂 徹	一般	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	水 5	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 「保育の心理学」で学んだ生涯発達と初期経験の重要性だけでなく、家族・家庭の理解や子育て家庭に関する現状と課題、さらに子どもの精神保健とその課題について学ぶ。					【受講して得られる力】 発達援助技術 生活援助技術		
【学習目標(到達目標)】 ①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ②家族・家庭の意義や機能の理解及びそれらの関係等についての発達の理解による包括的に捉える視点の習得。 ③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ④子どもの精神保健とその課題について理解する。							
【履修上の注意】 テキストだけでなく参考書も併せて持参のこと。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		講義概要と学習目標について理解する。 成績評価の方法と履修上の注意点について理解する。				
2	生涯発達 乳幼児期の発達		生涯発達における乳幼児期全体の発達の特徴について、基本的な発達の特徴である運動、認知、言語、社会性、自我の発達を理解する。				
3	学童期の発達		学童期の発達の特徴を認知、社会性、自己概念の観点から捉え、子どもたちが経験する様々な発達上の課題と、移行のプロセスで起こる発達と教育の諸問題について考察する。				
4	青年期の発達		青年期の身体的発達、認知発達、対人関係の変化、青年期の問題行動について学び、高リスクの子どもたちに対する介入研究を知る。				
5	成人期・中年期の発達		成人期・中年期の理解と諸課題及び危機について学ぶ。				
6	高齢期の発達		高齢期における発達、高齢者を取り巻く社会状況、高齢者福祉や支援などについて学ぶ。				
7	家族・家庭の理解 家族・家庭の意義と機能		家族や家庭の概念、意義について学ぶ。また、家族外のネットワークとのつながりで環境としての家庭を捉えていく必要性について理解する。				
8	親子関係・家族関係の理解		家族に関する基本的な理解と、その理解を深めるために、夫婦や親子に関する理論についても学ぶ。				
9	子育ての経験と親としての育ち		保護者に対する適切な子育て支援を行う前提としての保護者理解のために、親の意識や心理を理解するとともに、親としての育ちについて学ぶ。				
10	子育て家庭に関する現状と課題 子育てを取り巻く社会的状況		少子化の続く日本で、子どもが誕生した家族がどのような状況にあるか、また子育てを支える制度、医療などについて学ぶ。				
11	ライフコースと仕事・子育て		ライフコースの視点から人の生涯発達を理解することを学び、子育て期の親や子どもに影響を及ぼす様々な人々を理解できるようになる。				
12	多様な家庭とその理解		近年ますます多様化する家庭のありよう、家族の関係に焦点を当て、特に、社会的養護をはじめとする福祉領域との接点や家族関係の移行を経験する家庭の状況や課題について学ぶ。				
13	特別な配慮を要する家庭		養育者のメンタルヘルスや子どもの障害、虐待などの不適切な養育と家族の機能不全について学び、また、保育者自身のセルフケアの必要性についても理解する。				
14	子どもの精神保健とその課題 子どもの生活・生育環境とその影響		年齢に応じて必要とされる環境設定について学び、現代社会の環境変化の中での子育てや保育の必要性を理解する。				
15	子どもの心の健康に関わる問題		通常の子どもの行動の延長線上で起こる心の健康の課題について学び、これらの課題についての他機関との連携について理解する。				
期末試験			評価方法	受講態度	20%	筆記試験	40%
				レポート	40%		0%
【教科書】最新保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助(全社協)							
【参考書】幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習とその内容についての事前のアクションペーパーの作成と提出							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 子どもの食と栄養(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2		
辻 匡子		一般	細川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
				【曜日・コマ】	木 3・4	【授業形態・単位】	演習 2	
【授業の概要】 健康な生活を支えるための食生活の基本的知識を学び、子どもの成長段階に合わせた食生活について理解する。また、食物アレルギーや障害などから、特別な配慮が必要な子どもへの食育指導も含め、環境設定や、地域社会、文化との関わりを通して、食への理解を深めることを目的とする。					【受講して得られる力】			
【学習目標(到達目標)】 子どもは日々、目覚しい発育、発達を遂げつつあり、食生活と栄養について学ぶことはもちろん、自己の食への意識や食生活を省み、適切な食生活を実践する力を養う。					発達援助技術 生活援助技術 相談支援技術			
【履修上の注意】								
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	心身の健康と食生活		健康とは何か					
2	心身の健康と食生活		心身の健康増進と食生活					
3	食生活の現状と課題		栄養調査から見た食品, 栄養素等摂取状況					
4	食生活の現状と課題		栄養調査から見た食品, 栄養素等摂取状況					
5	食生活の現状と課題		生活リズムと課題					
6	栄養に関する基本的知識		栄養素の種類と機能					
7	栄養に関する基本的知識		栄養素の種類と機能					
8	栄養に関する基本的知識		栄養素の種類と機能					
9	栄養に関する基本的知識		栄養素の種類と機能					
10	栄養に関する基本的知識		栄養素の種類と機能					
11	食事摂取基準について		算定概要と必要量					
12	食事摂取基準について		算定概要と必要量					
13	食事摂取基準について		算定概要と必要量					
14	食事摂取基準について		算定概要と必要量					
15	献立作成と調理の基本		基本の作成方法					
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	60%	受講態度	40%	
【教科書】新ビジュアル食品成分表(大修館書店) 発育期の子どもの食生活と栄養(学健書院)								
【参考書】								
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】								
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】			教員室にて

授業名： 子どもの食と栄養(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
辻 匡子		一般	細川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
				【曜日・コマ】	木 3・4	【授業形態・単位】	演習 2
【授業の概要】 健康な生活を支えるための食生活の基本的知識を学び、子どもの成長段階に合わせた食生活について理解する。また、食物アレルギーや障害などから、特別な配慮が必要な子どもへの食育指導も含め、環境設定や、地域社会、文化との関わりを通して、食への理解を深めることを目的とする。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 子どもは日々、目覚しい発育、発達を遂げつつあり、食生活と栄養について学ぶことはもちろん、自己の食への意識や食生活を省み、適切な食生活を実践する力を養う。					発達援助技術 生活援助技術 相談支援技術		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	乳児期の心身の特徴と食生活		乳児期の食行動				
2	乳児期の心身の特徴と食生活		乳汁栄養				
3	乳児期の心身の特徴と食生活		人工栄養の実習				
4	離乳の意義と実施		離乳の必要性				
5	離乳の意義と実施		離乳食の実習①				
6	離乳の意義と実施		離乳食作りの留意点				
7	離乳の意義と実施		離乳食の実習②				
8	幼児期の心身の発達と食生活		幼児期の成長と発達				
9	幼児期の心身の発達と食生活		幼児期の食事の実習①				
10	幼児期の心身の発達と食生活		幼児期の間食について				
11	幼児期の心身の発達と食生活		幼児期の間食の実習②				
12	学童期の心身の発達と食生活		学童期の身体・精神的発達				
13	学童期の心身の発達と食生活		学童期の食生活と学校給食				
14	学童期の心身の発達と食生活		学童期の食育と夜食				
15	まとめ						
期末試験	実技試験		評価方法	筆記試験	60%	受講態度	40%
【教科書】新ビジュアル食品成分表(大修館書店) 発達期の子どもの食生活と栄養(学健書院)							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 言葉指導法

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
勝見 恵子	幼稚園・保育所 30年勤務	勝見	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	金 2	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 子どもの言葉の発達の道筋を学び、言葉の育ちを支える保育者の役割について保育の内容について学びます。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ① 領域「言葉」のねらい及び内容について理解する。 ② 言葉の発達を促す保育者の援助や知識を身に付ける。					発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術 相談支援技術		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	領域「言葉」とは		領域「言葉」の特徴やねらい・内容について 言葉を育む環境や乳幼児期の保育者の関わりについて学ぶ。				
2	言葉の発達と環境		乳幼児期の発達と領域「言葉」 言葉が育まれる道筋や保育者との関係性と言葉の発達について学ぶ。				
3	言葉の発達と環境		幼児期の発達と領域「言葉」 幼児期の言葉の発達や言葉を育む環境について学ぶ。				
4	手話講座		言語的コミュニケーションについて コミュニケーション手段である言語(手話)について理解する。				
5	領域「言葉」と保育の実際		信頼関係から生み出される言葉 言葉が生み出されていく道筋と保育者の役割について学ぶ。				
6	領域「言葉」と保育の実際		自分の考えや思いを伝える言葉 いざこざや集団遊びを通して、言葉の育ちを考える。				
7	領域「言葉」と保育の実際		多様な感情体験と言葉 豊かな体験を支える保育者の役割について学ぶ。				
8	絵本と言葉		絵本と保育 絵本がどうして生活の中に取り入れられているのか、絵本のもつ役割について考える。				
9	絵本と言葉		絵本と保育 絵本を取り入れた保育と、言葉が豊かになる保育について学ぶ。				
10	言葉を豊かにする保育教材		スケッチブックシアター製作 乳幼児が興味関心がをもち、言葉を楽しめるシアターを製作する。				
11	言葉を豊かにする保育教材		スケッチブックシアター製作 乳幼児が興味関心がをもち、言葉を楽しめるシアターを製作する。				
12	言葉を豊かにする保育教材		スケッチブックシアター製作 乳幼児が興味関心がをもち、言葉を楽しめるシアターを製作する。				
13	言葉を豊かにする保育教材		スケッチブックシアター製作 乳幼児が興味関心がをもち、言葉を楽しめるシアターを製作する。				
14	言葉を豊かにする保育教材		スケッチブックシアター製作 乳幼児が興味関心がをもち、言葉を楽しめるシアターを製作する。				
15	言葉を豊かにする保育教材		スケッチブックシアターを用いた保育 指導計画案を作成し、保育の展開を考える。				
期末 試験	実技試験		評価方法	実技試験	50%	課題の達成度	30%
				受講態度	20%		
【教科書】							
【参考書】幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(チャイルド社)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 表現指導法

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	子ども未来学科	【学年】	2	
大城 泰造	一般	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 4	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 養護と教育にかかわる保育の内容を総合的に理解しつつ、子どもの発達を主に「表現」の領域の観点から捉え、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする発達の援助について具体的に学ぶ。					【受講して得られる力】 遊びの展開技術 コミュニケーション技術 環境構成技術		
【学習目標(到達目標)】 ①保育における造形活動の意義について理解し、実践プログラムを作成することができる。 ②保育における造形活動にふさわしい環境の構成を行うことができる。 ③保育における表現場面で言葉がけを中心とした適切な援助について配慮できる。 ④保育の質的向上を目指した実践の省察と再計画化を行う姿勢を構築できる。							
【履修上の注意】受講人数等のやむをえない事情により、シラバスの内容を一部修正する可能性があります							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	ガイダンス		映像を通して、現代の子育ての背景を理解し、保育者の役割を再考する。 保育における造形表現の役割を理解し、全体の学びの方法論を習得する。				
2	講義		「美術教育の意義と保育における表現の理解」 美術教育の意義と保育における表現の理解について学ぶ				
3	制作研究①		粘土口 粘土体験と発想について学ぶ				
4	制作研究②		土粘土 土粘土で協同制作に取り組み、素材の体験と協同制作を通して造形表現の可能性を探る				
5	制作研究③		絵画の共同制作 絵の具を用いての描画活動を通して道具の扱いや表現の在り方を探る				
6	ギャラリートーク①		対話型鑑賞口 いざござや集団遊びを通して、言葉の育ちを考える。				
7	ギャラリートーク②		対話型鑑賞の模擬的体験 対話型鑑賞を模擬的に体験しその効果や留意点を学ぶ				
8	制作研究④		子ども表現の特徴を学ぶ 乳幼児期の遊び、表現の特徴を学ぶ				
9	制作研究⑤		子ども表現の特徴を学ぶ 絵本を取り入れた保育と、言葉が豊かになる保育について学ぶ。				
10	制作研究⑥		3、4、5歳児の遊び 3歳以上児の表現における特性を学ぶ				
11	ロールプレイング①		グループワークのはじまり グループ討議、教材準備を通して環境構成について学ぶ				
12	ロールプレイング②		前半グループの実施、振り返り 具体的な事例について学ぶ				
13	ロールプレイング③		後半グループの実施、振り返り 具体的な事例について学ぶ				
14	ロールプレイング④		前半・後半を通して比較・検討する 具体的な事例について学ぶ				
15	ロールプレイング⑤		前半・後半を通して比較・検討する 具体的な事例について学ぶ				
期末試験	評価方法		課題の達成度	70%	受講態度	30%	
【教科書】講義内で必要なコピーを配布します。							
【参考書】講義内で必要なコピーを配布します。							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ロールプレイングではグループによる事前打ち合わせ、参考作品制作、プレゼンのリハーサル、反省会など予習復習をすること。							
【本講義に関しての質問先】			担当教員	【質問方法】			メール連絡

授業名： 子どもの健康と安全

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
高萩 和子	一般	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、衛生管理・危機管理・事故防止及び安全対策・感染症対策について理解し、子どもの体調不良や発達や状態に即した適切な対応について具体的に理解する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 相談支援技術		
【学習目標(到達目標)】 ①保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 ②関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策・感染症対策について、具体的に理解する。 ③子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。							
【履修上の注意】 履修してきたことを振り返りながら、次回の講義内容を通読してくること。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	環境及び衛生管理・安全管理		保育現場における衛生管理について				
2	環境及び衛生管理・安全管理		保育環境整備と保健・危機管理について				
3	健康及び安全の実施体制		職員間・家庭・地域・専門機関との連携について				
4	子どもの保健と環境		健康状態、発育・発達状態の把握について				
5	子どもの保健と環境		身体計測、発育評価方法について				
6	子どもの保健と環境		子どもの生活習慣と養護について				
7	子どもの保健と環境		清潔・手洗い方法について				
8	子どもの疾病と適切な対応		症状に応じた対応について				
9	子どもの疾病と適切な対応		感染している児への対応について				
10	子どもの疾病と適切な対応		嘔吐物の処理法について①				
11	子どもの疾病と適切な対応		嘔吐物の処理法について②				
12	子どもの疾病と適切な対応		個別な配慮を必要とする子どもへの対応について				
13	事故防止及び健康安全管理		保育における救急処置				
14	事故防止及び健康安全管理		心配蘇生法について				
15	まとめ		後期学習のまとめ				
期末試験	筆記試験		評価方法	受講態度	40%	筆記試験	60%
【教科書】子どもの保健～健康と安全～(日本小児医事出版社)							
【参考書】子どもの保健演習ノート改訂3版(診断と治療社)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			

授業名： 障害児保育(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
小坂 徹	一般	細川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	水 3	【授業形態・単位】	演習 2	
【授業の概要】 障害児保育の理念や歴史の変遷について学び、障害児保育について理解する。また、各種障害についての理解を深め、障害児の援助方法や環境構成についても学び、他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。さらに、障害のある子どもの保護者への支援や、保健、医療などの関係機関との連携についても理解を深める。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①「障害」について説明できる ②各種障害について説明できる ③各種障害のある子どもの保育について理解する ④家庭及び関係機関との連携とその必要性、方法について理解する					考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 相談支援技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術		
【履修上の注意】必ず予習をしてきて、リアクションペーパーに疑問点を記入すること。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	障害児保育を支える理念		講義概要、評価方法についての説明 障害児保育とは？なぜ、障害児保育を学ぶのか？について理解する				
2	障害児保育を支える理念		講義 ①「障害児がある」とは？ ②障害がある子どもへの保育とは？について理解する				
3	障害児保育を支える理念		演習課題を通して、理解を深める 演習課題について事前レポートを提出し、その上でグループ討議を行う				
4	障害児保育の基本		講義 発達の見方と気になる発達の評価、障害児保育の対象と保育の場について学ぶ				
5	障害児保育の基本		演習課題を通して、理解を深める 演習課題について事前レポートを提出し、その上でグループ討議を行う				
6	障害の理解と保育(知的障害)		講義 いざこざや集団遊びを通して、言葉の育ちを考える。				
7	障害の理解と保育(知的障害)		演習課題を通して、理解を深める 演習課題について事前レポートを提出し、その上でグループ討議を行う				
8	障害の理解と保育(肢体不自由、聴覚障害、視覚障害)		講義 肢体不自由、聴覚障害、視覚障害の理解と保育について学ぶ				
9	障害の理解と保育(肢体不自由、聴覚障害、視覚障害)		演習課題を通して、理解を深める 絵本を取り入れた保育と、言葉が豊かになる保育について学ぶ。				
10	発達が気になる子どもの理解と保育		講義 発達が気になる子どもとは？また、その発達の援助について学ぶ				
11	発達が気になる子どもの理解と保育		演習課題を通して、理解を深める 演習課題について事前レポートを提出し、その上でグループ討議を行う				
12	障害の理解と保育(自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥多動性障害)		講義 肢体不自由、聴覚障害、視覚障害の理解と保育について学ぶ				
13	障害の理解と保育(自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥多動性障害)		演習課題を通して、理解を深める 演習課題について事前レポートを提出し、その上でグループ討議を行う				
14	保育の計画の作成と記録・評価		講義 子ども理解に基づく、計画の作成と記録・評価について学ぶ				
15	保育の計画の作成と記録・評価		演習課題を通して、理解を深める 演習課題について事前レポートを提出し、その上でグループ討議を行う				
期末試験	評価方法		授業への貢献	60%	レポート	40%	
【教科書】障害児保育 一子どもとともに成長する保育者を目指して-(萌文書林)							
【参考書】適宜プリント配布							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】予習課題のリアクションペーパーへの記載と事前提出。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 障害児保育(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2
小坂 徹	一般	細川	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	水 3	【授業形態・単位】	演習 2
【授業の概要】 障害児保育の理念や歴史の変遷について学び、障害児保育について理解する。また、各種障害についての理解を深め、障害児の援助方法や環境構成についても学び、他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。さらに、障害のある子どもの保護者への支援や、保健、医療などの関係機関との連携についても理解を深める。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①「障害」について説明できる ②各種障害について説明できる ③各種障害のある子どもの保育について理解する ④家庭及び関係機関との連携とその必要性、方法について理解する					発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術 相談支援技術 考え抜く力	
【履修上の注意】必ず予習をしてきて、リアクションペーパーに疑問点を記入すること。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	個々の発達を促す生活や遊びの環境	講義 幾つかのエピソードを通して、保育の環境や保育者の支援について学ぶ				
2	個々の発達を促す生活や遊びの環境	演習課題を通して、理解を深める 演習課題について事前レポートを提出し、その上でグループ討議を行う				
3	他者とのかかわりと育ちあい	講義 保育者の関わりと集団保育における配慮について学ぶ				
4	他者とのかかわりと育ちあい	演習課題を通して、理解を深める 演習課題について事前レポートを提出し、その上でグループ討議を行う				
5	職員間の協力関係	講義 幾つかのエピソードを通して、職員間の連携、協力、情報共有について学ぶ				
6	職員間の協力関係	演習課題を通して、理解を深める いざこざや集団遊びを通して、言葉の育ちを考える。				
7	家庭や関係機関との連携	講義 保護者の気持ちを理解した上での、連携による支援について学ぶ				
8	家庭や関係機関との連携	演習課題を通して、理解を深める 演習課題について事前レポートを提出し、その上でグループ討議を行う				
9	早期発見と支援	講義 絵本を取り入れた保育と、言葉が豊かになる保育について学ぶ。				
10	早期発見と支援	演習課題を通して、理解を深める 演習課題について事前レポートを提出し、その上でグループ討議を行う				
11	就学に向けての支援	講義 障害のある子どもの就学先と就学に向けての支援について学ぶ				
12	就学に向けての支援	演習課題を通して、理解を深める 演習課題について事前レポートを提出し、その上でグループ討議を行う				
13	保健・医療における現状と課題	障害のある子どもにかかわる保健・医療の現状と課題について学ぶ				
14	福祉・教育における現状と課題	障害のある子どもにかかわる福祉・教育の現状と課題について学ぶ				
15	支援の広がりにつながり	事例を通して、支援に関する縦と横のつながりについて学ぶ				
期末試験		評価方法	授業への貢献	60%	レポート	40%
【教科書】障害児保育 一子どもとともに成長する保育者を目指して(萌文書林)						
【参考書】適宜提示。プリント配布。						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】各授業前の予習とその内容についてのリアクションペーパーへの記載と事前提出。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】教員室にて			

授業名： 社会的養護Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2
細川 梢	児童福祉施設 7年勤務	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 社会的養護の授業から、より具体的に社会的養護における児童に対する専門的技術を学ぶ。日常生活支援、治療的支援、自立支援等の内容についても具体的に学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①社会的養護を必要とする子どもの姿と生活について、具体的に理解する。 ②施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 ③社会的養護における計画・記録・自己評価を行うことの意味について理解する。					考え抜く力 チームで働く力 生活援助技術 相談支援技術	
【履修上の注意】 施設実習の事前学習及び、事後学習としても取り組んでください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	児童福祉施設ボランティア①	ボランティアを通して、子ども(主に、学童期以降)の姿や生活習慣、生活環境を知る。				
2	児童福祉施設ボランティア②	ボランティアを通して、子ども(主に、学童期以降)の姿や生活習慣、生活環境を知る。				
3	児童福祉施設ボランティア③	ボランティアを通して、生活を支援する職員の仕事内容を知る。				
4	児童福祉施設ボランティア④	ボランティアを通して、生活を支援する職員の仕事内容を知る。				
5	社会的養護における子どもの理解	ボランティア体験から、子どもたちの理解と生活環境の理解を深める。				
6	社会的養護における保育士の役割	ボランティア体験を基に、社会的養護における保育士の役割と専門的支援の理解を深める。				
7	保育士の倫理と責務	児童憲章、全国児童養護施設協議会倫理綱領を通じた、施設職員の役割の理解する。				
8	施設養護の理解	社会的養護を必要とする子どもが生活する各種別施設の特徴を調べ、報告・発表の準備をする。				
9	施設養護の理解	社会的養護を必要とする子どもが生活する各種別施設の特徴を調べ、報告・発表する。				
10	家庭養護の理解	大舎制と小舎制、施設型と地域型の特徴を踏まえ、家庭養護の理解を深める。				
11	児童期・思春期の発達理解	映像を通して、10代の子どもたちの支援と養育者の在り方を考える。				
12	自立支援計画と記録	自立支援計画の作成や記録を残す意味を理解する。				
13	個々に応じた支援	施設実習で出会った子どもの姿から、子どもの理解、支援方法を再考する。				
14	個々に応じた支援	発達障害児と被虐待児の類似点や配慮点を理解する。				
15	支援者の課題	援助者のメンタルヘルスを保つ方法を理解する。				
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	30%	課題の達成度	30%
			授業への貢献	30%	受講態度	10%
【教科書】子どもと社会的養護の基本(学文社)						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 社会的養護Ⅰの授業の復習。自らが行う実習先の施設種別の予習・復習を行ってください。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 子育て支援

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
鈴木 佳代子	幼稚園・保育所 42年勤務	鈴木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	水 4	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 保育士の行う子育て支援について、保育士と保護者の関係形成方法や保育所が行う支援の実際について理解を深める。また、様々な場面や対象に即した支援の方法や技術を実践的に学ぶ。					【受講して得られる力】 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 コミュニケーション技術		
【学習目標(到達目標)】 ①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 ②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。							
【履修上の注意】教科書等の持参物は忘れないよう注意すること。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	子育て支援の特性①		授業内容や諸注意等について理解する。 子どもの保育とともに行う保護者の支援を理解する。				
2	子育て支援の特性②		日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成を理解する。				
3	子育て支援の特性③		保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解を学ぶ。				
4	子育て支援の特性④		子ども・保護者が多用な他者と関わる機会や場の提供を理解する。				
5	子育て支援の展開①		子ども及び保護者の状況・状態の把握を理解する。				
6	子育て支援の展開②		支援の計画と環境の構成を理解する。				
7	子育て支援の展開③		支援の実践・記録・評価・カンファレンスを理解する。				
8	子育て支援の展開④		職員間の連携・協働を理解する。				
9	子育て支援の展開⑤		指導計画(長期的・短期的)の作成を理解する。				
10	子育て支援の内容・方法・技術①		保育所等における支援や地域の子育て家庭に対する支援を理解する。				
11	子育て支援の内容・方法・技術②		障害のある子ども及びその家庭に対する支援を理解する。				
12	子育て支援の内容・方法・技術③		特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援を理解する。				
13	子育て支援の内容・方法・技術④		子ども虐待の予防と対応を理解する。				
14	子育て支援の内容・方法・技術⑤		要保護児童等の家庭に対する支援を理解する。				
15	子育て支援の内容・方法・技術⑥		多用な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解をする。				
期末試験	筆記試験		評価方法	実技試験	30%	筆記試験	40%
				課題の達成度	30%		
【教科書】保育所保育指針解説書(厚生労働省)							
【参考書】学習の主題に応じて適宜資料を配布。							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】子育てに関する記事の収集や演習課題について考え提出する。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 保育実践演習(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2		
鍋山 友子・田母神 知加子 勝見 恵子		一般	鍋山	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)	
				【曜日・コマ】	火 1・2	【授業形態・単位】	演習 2	
【授業の概要】					【受講して得られる力】			
子どもの生活と遊び(表現と運動)Ⅰ及びⅡで修得した技能を基に、リズム劇の舞台発表へと表現内容を充実発展させる。 発表会の企画・運営・発表会を通して保育士として実用な知識・技能を修得したかを確認する。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力			
【学習目標(到達目標)】								
①自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。 ②リズムカルな動きの中にテーマに沿った感情や訴えたいことを、心豊かに表現できるよう努力する。 ③仲間と協力し創作に力を注ぐことで実践力に磨きをかけ、保育者としての資質向上を図る。								
【履修上の注意】					卒業試験該当科目であることを心得て授業に取り組むこと。			
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	ガイダンス、DVD鑑賞		授業計画を把握する。 リズム劇とはどういうものかDVDを鑑賞する。					
2	リズム劇のテーマ設定・選曲		どんな作品にするか話し合う。 作品の構想を練る。場面設定を考える。					
3	役割選出		リーダー選出 企画・運営・舞台監督・振り付け・パートリーダー・音楽担当・ナレーターを決定する。					
4	テーマ設定・場面設定		内容に合ったテーマを設定する。 場面数を決め、場面ごとの構想を練る。					
5	衣装の検討・選曲・配役決定		衣装のアイデアを出し合う。 選曲と配役をどうするか相談して決める。					
6	各場面の感情抽出・選曲と衣装の決定		各場面の動きと感情を具体的に抽出する。 いざこざや集団遊びを通して、言葉の育ちを考える。					
7	創作・振り付け開始		場面ごとに表現内容の構想を練る。 振り付けを開始する。					
8	ナレーションの検討・創作・振り付け		子どもに分かりやすくするためのナレーションを考える。 1、2場面の主題に合う振り付けを創作する。					
9	創作・振り付け		1、2場面の主題に合う振り付けを創作する。					
10	創作・振り付け・衣装製作		1、2場面の主題に合う振り付けの完成を目指す。 衣装をどうするかその準備を具体的に考える。					
11	創作・振り付け・舞台背景		3、4場面の主題に合う振り付けを創作する。 舞台背景の構想を練る。					
12	創作・振り付け・衣装製作		3、4場面の主題に合う振り付けを創作する。 衣装の準備を具体的に進める。					
13	創作・振り付け・舞台背景・大道具		3、4場面の主題に合う振り付けを創作する。 舞台背景と大道具の製作を考える。					
14	創作・振り付け・衣装製作		3、4場面の主題に合う振り付けの完成を目指す。 衣装の準備を役柄に合わせて、具体的に進める。					
15	創作・通し練習・舞台背景・大道具		場面を繋ぎ、通して練習してみる。 舞台背景と大道具の製作を行う。					
期末試験			評価方法	授業への貢献	50%	発表会の結果	50%	
【教科書】特になし。								
【参考書】特になし。								
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業時間外でのクラスメイトとの話し合い、練習、製作に力を注ぐ。								
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】				教員室にて

授業名： 保育実践演習(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2		
鍋山 友子・田母神 知加子 勝見 恵子		一般	鍋山	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)	
				【曜日・コマ】	火 1・2	【授業形態・単位】	演習 2	
【授業の概要】					【受講して得られる力】			
子どもの生活と遊び(表現と運動)Ⅰ及びⅡで修得した技能を基に、リズム劇の舞台発表へと表現内容を充実発展させる。 発表会の企画・運営・発表会を通して保育士として実用な知識・技能を修得したかを確認する。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力			
【学習目標(到達目標)】								
①自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する。 ②リズムカルな動きの中にテーマに沿った感情や訴えたいことを、心豊かに表現できるよう努力する。 ③仲間と協力し創作に力を注ぐことで実践力に磨きをかけ、保育者としての資質向上を図る。								
【履修上の注意】					卒業試験該当科目であることを心得て授業に取り組むこと。			
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	一連の振り付けの確認・衣装製作		通して踊ることで場面展開がうまくできているか確認する。 衣装を持ち寄り吟味する。					
2	通し練習、舞台背景・大道具製作		ナレーションを加えての練習を行う。 各場面の表現する内容に合った舞台背景を考えて製作する。					
3	通し練習・衣装合わせ		踊ってみることで手直しを加えていく。 実際に衣装を着用して踊ってみる。					
4	部分練習・通し練習・舞台背景・大道具製作		部分的な練習と通し練習を交えて練習効果を狙う。 各場面の表現する内容に合った舞台背景を考えて製作する。					
5	部分練習・通し練習・舞台背景・大道具製作		部分的な練習と通し練習を交えて練習効果を狙う。 製作したものが表現内容と合致しているか吟味する。					
6	踊り込み・衣装着用での練習		テーマに沿った感情表現に力を入れて踊り込みを行う。 いざこざや集団遊びを通して、言葉の育ちを考える。					
7	踊り込み・舞台背景・大道具製作		極限までの動きと感情表現ができているかを確認する。 実際に舞台上に設置することで検討する。					
8	ナレーションの検討・踊り込み		子どもに分かりやすくするためのナレーションが完成したか確認する。 実際に舞台上での通し練習を行い、不具合はないか検討する。					
9	踊り込み・衣装着用での練習		ナレーション、音楽と動きがマッチしているか確認する。 絵本を取り入れた保育と、言葉が豊かになる保育について学ぶ。					
10	部分練習と踊り込み・衣装着用・舞台背景セッティング		難しい振り付けの場면을反復練習して通し練習へと持っていく。 本番通りにセッティングして練習する。					
11	踊り込み・衣装着用・舞台背景セッティング		感情表現と極限の動きを重視して踊り込みをする。 衣装や舞台上での不具合はないか調整する。					
12	発表会のリハーサル・企画・運営		本番通りに企画運営する。そのものになり切って踊る。 企画・運営の方法について検討する。					
13	リハーサルの振り返り・舞台背景・衣装の点検		リハーサルを振り返り、さらに練習を重ねて完成度を高める。 舞台背景・大道具・衣装の点検をする					
14	発表会・発表会の企画・運営		キッズ附属保育所の子ども達を招待して発表する。 個々の役割を十分に果たすよう努める。					
15	DVD鑑賞・反省会		完成した作品を鑑賞する。 反省会と振り返りレポートを作成する。					
期末試験	発表会は実技試験を兼ねる。		評価方法	授業への貢献	50%	発表会の結果	50%	
【教科書】特になし。								
【参考書】特になし。								
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業時間外でのクラスメイトとの話し合い、練習、製作に力を注ぐ。								
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】				教員室にて

授業名: 医療保育総論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
松本 美津子・菊地 信太郎 中村 くみ子		一般	細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
				【曜日・コマ】	金 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 出生前からの子どもとその母親の状況を知り、親子の全体像を捉える。また、子どもの主な疾患や障害について学び、病児保育や体調不良児童への対応、生活の中での療育活動など医療と保育の連携について理解を深める。					【受講して得られる力】 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 相談支援技術		
【学習目標(到達目標)】 1. 医療と保育の具体的な連携方法を理解する 2. 小児領域の主な疾患について理解する 3. 体調不良児童や障害児の遊びと生活支援を具体的に理解し、実践する							
【履修上の注意】		開講日が異なることもあるため、開講日に注意すること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	妊娠～出産までの状況を知る 松本		妊娠の成立から胎児の成長、新生児について知る。 出産時の流れから、新生児期の育児について体験を通して理解を深める。				
2	妊娠中の母親の現状を知る 松本		妊婦の生活における苦労や大変さ、夫の関わり、家族の協力の必要性について理解する。 母親の愛着問題や、生育歴など、育児との関係について知る。				
3	DVIについて知る 松本		DVの種類や被害の影響について正しく理解する。				
4	小児を知る 菊池		子ども(小児)とは。子どもと大人の違いを知る。 小児の特性と、医療における小児の分野について知る。				
5	子どもの発達を知る 菊池		小児の成長と発達について知る。成長や発達の遅れとは。 成長曲線の描き方、見方を知る。				
6	小児に見られる症状を知る 菊池		小児でよく見られる症状や気を付けるべき症状を知る。 いざごさや集団遊びを通して、言葉の育ちを考える。				
7	小児の感染症について知る 菊池		小児疾患のほとんどを占める感染症について知る。 感染症とは、感染症の種類、特性、感染について知る。				
8	小児の主な事故と予防を知る 菊池		小児で生じやすい主な事故を知る。 事故の対策と予防について知る。				
9	病児病後児保育について知る 菊池		病児病後児保育とは、病児病後児保育室の実際について 絵本を取り入れた保育と、言葉が豊かになる保育について学ぶ。				
10	食物アレルギーについて知る 菊池		食物アレルギーとは、食物アレルギーの主な原因と症状、 その対策について知る。				
11	小児の慢性疾患について知る 菊池		小児の主な慢性疾患の概要と対応について知る。				
12	病児保育実習		病児保育の実際 小児科及び病児保育室で実習を行い、実際の現場で体験し理解を深める。				
13	言語聴覚士とは 中村		言語聴覚士の仕事内容を知る。				
14	言語発達とコミュニケーション 中村		言葉の発達や言葉に関する障害について知る。				
15	摂食嚥下について 中村		嚥下の仕組み等、詳しい内容を体験を通して知る。				
期末試験	筆記試験		評価方法	受講態度	50%	筆記試験	50%
【教科書】医療保育 ぜひ知っておきたい小児科知識改訂4版(診断と治療社) 子どもの保健演習ノート 改訂3版(診断と治療社) 認定病児保育スペシャリスト試験 公式テキスト(栄治出版)							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】「子どもの保健」「子どもの健康と安全」で学習したことを振り返りながら、復習すること。							
【本講義に関する質問先】		担当教員		【質問方法】 教員室にて			

授業名： 多職種連携総論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
調整中	一般	細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 保育現場における多職種連携、協働の実際を理解し、保育士に関連する専門職の専門性と、それらの専門職と協働することによる保育士のアイデンティティの理解を深める。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①他の専門職の専門性を知る。 ②他の専門職と保育士がどのように協働できるのかを考える。 ③専門的技術の一部分を習得する。					考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 相談支援技術		
【履修上の注意】 開講日が異なることもあるため、開講日に注意すること。							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	理学療法を必要とする子どもの実際①	小児理学療法の実際と、理学療法士と保育士の連携について理解する。					
2	理学療法を必要とする子どもの実際②						
3	理学療法士と保育士の役割①						
4	理学療法士と保育士の役割①						
5	介護福祉施設の実際	介護福祉の現場を知り、介護福祉士と保育士の連携について理解する。					
6	介護福祉士と保育士の役割①						
7	介護福祉士と保育士の役割②						
8	臨床心理士と保育士の役割①	小児分野の臨床心理士の仕事内容を知り、臨床心理士と保育士の連携について理解する。					
9	臨床心理士と保育士の役割②						
10	子どもの目の健康と保育①	視能訓練士の仕事内容と子どもの目の健康について知る。 視能訓練士と保育士の連携について理解する。					
11	子どもの目の健康と保育②						
12	子どもと大人の歯の健康と指導法①	歯科衛生士による、歯の健康指導の方法について実践的に学ぶ。					
13	子どもと大人の歯の健康と指導法②						
14	緊急時の救急法①	柔道整復師による、包帯の使用方法や固定法などを具体的に学ぶ。					
15	緊急時の救急法②						
期末試験		評価方法	受講態度	50%	レポート	50%	
【教科書】							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 医療・保健・障害の分野でこれまで学習したことを振り返りながら、復習すること。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名： 発達障害児の理解と対応

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
小坂 徹	一般	細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	水 5	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 発達障害をもつ子や気になる子の行動の意味を考えながら、実際の保育場面での様々なつまづき行動に対する理解を深めながら、実際の対応の工夫についての実践的な手立てを身につける。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ① 発達障害児や気になる子と行動特徴について理解する。 ② その行動の意味を考えることができる。 ③ その行動の意味に合わせた対応の工夫ができる。					考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術 コミュニケーション技術 環境構成技術		
【履修上の注意】 毎回の予習とリアクションペーパーの事前提出。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		講義概要の説明, テキストについて 評価方法についての説明, 履修上の注意点についての説明				
2	登園時の配慮と工夫		①園に馴染めない場合 ②荷物の整理 ③出席のシール貼り それぞれの理由と対応の工夫について考える				
3	自由遊び時の配慮と工夫		①仲間に入れない場合 ②友だちのおもちゃを取ってしまう場合 ③友だちに手が出してしまう場合				
4	自由遊び時の配慮と工夫		①友だちの嫌がることを言ってしまう場合 ②同年齢の友だちとの関わりが少ない場合 ③特定の保育者がいないと遊べない場合				
5	自由遊び時の配慮と工夫		①遊びを次々に変えていってしまう場合 ②同じ遊びしか行わず、遊びが発展しない場合 ③危険な場所を好む場合				
6	自由遊び時の配慮と工夫		①片づけができない場合 ②次の場面への切り替えがスムーズにできない場合				
7	集団活動時の配慮と工夫		①保育者の説明がわからず、反応できない場合 ②保育室や園から飛び出してしまふ場合 ③絵本や紙芝居の読み聞かせに参加できない場合				
8	集団活動時の配慮と工夫		①造形活動に参加できない場合 ②運動遊びに参加できない場合 ③集団遊びに参加できない場合				
9	集団活動時の配慮と工夫		①水遊びに参加できない場合 ②ごっこ遊びに参加できない場合 ③しゃべってはいけない場面でもよくしゃべる場合				
10	排泄時の配慮と工夫		①トイレに行くことを嫌がる場合 ②尿意・便意を知らせない場合 ③トイレでの排泄が上手くできない場合				
11	散歩時の配慮と工夫		①安全に行動できない場合 ②みんなと同じペースで歩けない場合				
12	食事時の配慮と工夫		①配膳されるとすぐに食べてしまう場合 ②咀嚼やくや飲み込みが上手くない場合 ③食器を上手く使えない場合				
13	食事時の配慮と工夫		①落ち着いて食べられない場合 ②食べることを嫌がる場合				
14	着脱時・午睡時の配慮と工夫		①自分でできない場合 ②嫌がる場合 ③調節が難しい場合 ④午睡ができない場合				
15	降園時の配慮と工夫		①帰りの準備ができない場合 ②スムーズに帰れない場合				
期末試験			評価方法	授業への貢献	60%	レポート	40%
【教科書】 気になる子も過ごしやすい園生活のヒント(学研)							
【参考書】 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(ミネルヴァ)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各授業前の予習とその内容についてのリアクションペーパーへの記入と事前提出。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			

授業名： 居住環境学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
田中 絹代		細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
肢体不自由児施設22年勤務			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 障害のある子どもの療育の一つである感覚統合理論をもとに、子どもの行動特性を理解し、子どもの発達に応じた感覚運動遊びについて学ぶ。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 発達援助技術 遊びの展開技術	
【学習目標(到達目標)】 ①感覚統合理論に基づいて子どもの発達を促す遊びを立案できる ②障害をもった子どもに配慮し、感覚統合理論に基づいたプログラムを安全に実施できる						
【履修上の注意】 障害者体験や高齢者体験も行います。動きやすい服装で参加してください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	概論	人間にとっての住居環境の概念を理解し、説明できる 自分の理想の住居環境について理解し、表現できる				
2	子どもの権利条約にみる住居環境	「子どもの権利条約」にみる住居環境について理解し、説明できる 世界で起きている出来事を「子ども権利条約」から説明できる				
3	子どもの行動と環境の関係	子どもの発達と行動、環境との相互関係について理解し、説明できる				
4	子どもを取り巻く住居環境の変化	子どもの住居環境の変化と行政の対応について理解し、説明できる 子育て世代の住居環境のニーズ、生活との関連について説明できる				
5	子育てと住居環境①	子育てに適した環境を①安全性、②健康性、③快適性、④利便性に分けて理解し、説明できる				
6	子育てと住居環境②	子育てに配慮した住居環境(住宅・地域社会)を説明できる				
7	障害者と高齢者と住居環境①	演習を通して障害者・高齢者の住居環境のニーズや生活との関連について理解する				
8	障害者と高齢者と住居環境②	障害者・高齢者に配慮した住居環境(住宅・地域社会)を説明できる				
9	子ども、障がい者、高齢者のための住環境①	「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について理解し、実際の住宅の改築案を考えることができる				
10	子ども、障がい者、高齢者のための住環境②	グループ課題の発表を通して、「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」に沿った住環境について理解を深める				
11	地域コミュニティと社会的弱者の視点にたった街づくり①	子ども、障害者、高齢者にとっての住宅環境・地域環境の持つ意味について理解し、「すべての人々のための街づくり」を提案できる				
12	地域コミュニティと社会的弱者の視点にたった街づくり②	「全ての人々のための街づくり」について、子どもが学ぶ活動を立案・準備することができる				
13	地域コミュニティと社会的弱者の視点にたった街づくり③	「全ての人々のための街づくり」について、子どもが学ぶ活動を実施することができる				
14	地域コミュニティと社会的弱者の視点にたった街づくり④	「全ての人々のための街づくり」について、子どもが学ぶ活動を振り返ることができる				
15	地域コミュニティと社会的弱者の視点にたった街づくり⑤	「社会的弱者の視点にたったまちづくり」経過のまとめと発表を通して、理解を深め、説明することができる				
期末試験	レポート	評価方法	課題の達成度	40%	受講態度	30%
			レポート	30%		
【教科書】適時紹介します						
【参考書】適時紹介します						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 グループ活動の準備						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 感覚統合入門

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
田中 絹代	肢体不自由児施設22年勤務	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 障害のある子どもの療育の一つである感覚統合理論をもとに、子どもの行動特性を理解し、子どもの発達に応じた感覚運動遊びについて学ぶ。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 発達援助技術 遊びの展開技術	
【学習目標(到達目標)】 ①感覚統合理論に基づいて子どもの発達を促す遊びを立案できる ②障害をもった子どもに配慮し、感覚統合理論に基づいたプログラムを安全に実施できる						
【履修上の注意】 実際の遊具を使った演習を通して理解を深めます。動きやすい服装で参加してください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	感覚統合理論①	障害をもつ子どもを対象とした療育の中で「感覚統合」についての位置づけや理論的背景を説明できる				
2	感覚統合理論②	感覚の機能と発達の意義について説明できる				
3	感覚統合機能の評価①	感覚統合機能の評価が実施できる				
4	感覚統合機能の評価②	感覚統合機能の評価結果を生活上の行動として理解できる				
5	触覚系の感覚遊び	演習を通して触覚系の遊びとその意義について理解できる				
6	固有受容系の感覚遊び	演習を通して固有受容系の遊びとその意義について理解できる				
7	前庭系の感覚遊び	演習を通して前庭系の遊びとその意義について理解できる				
8	視覚系・聴覚系の感覚遊び	演習を通して視覚系・聴覚系の遊びとその意義について理解できる				
9	感覚運動遊びの展開	「正常発達」の原則に基づいて感覚運動遊びの展開ができる				
10	生活・運動・学習技能の向上を促す遊び	感覚統合理論を基盤に生活・運動・学習技能の向上を促す感覚運動遊びと支援策について理解する。				
11	グループ活動の立案と実施①	感覚統合理論をもとにしてグループ活動を立案できる				
12	グループ活動の立案と実施②	感覚統合理論をもとにしたグループ活動を実施し、記録できる				
13	グループ活動の立案と実施③	感覚統合理論をもとにしたグループ活動を振りかえることができる				
14	グループ活動の立案と実施④	グループ活動のまとめを発表することで理解を深める				
15	まとめ	子どもの行動を感覚統合理論の視点だけでなく、他の発達学的視点から統合的に理解できる				
期末試験	レポート	評価方法	課題の達成度	40%	受講態度	30%
			レポート	30%		
【教科書】適時紹介します						
【参考書】適時紹介します						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 グループ活動の準備						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 在宅保育

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2			
細川 梢・鈴木 佳代子		一般	細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)		
				【曜日・コマ】	水 1	【授業形態・単位】	講義 2		
【授業の概要】 様々な社会的ニーズによって発生してきたベビーシッターの役割を理解する。在宅での保育に必要な技術や安全管理方法を学び、ベビーシッターとして必要とされる専門的技術を身につける。					【受講して得られる力】 考え抜く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術 相談支援技術				
【学習目標(到達目標)】 ①在宅保育の意義や役割を理解する ②ベビーシッターとして必要な知識、技術を習得する。									
【履修上の注意】		全講義を履修後、試験を実施し、保育士資格取得と同時に認定ベビーシッター資格を取得することができます。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)						
1	オリエンテーション 細川		履修上の注意点、授業の内容や進め方について理解する。						
2	在宅保育とは 細川		子ども子育て支援法における保育サービス制度の理解と、その中の一つである在宅保育の社会的役割について理解する。						
3	ベビーシッターの実際① 鈴木		ベビーシッターの仕事の流れとその内容を理解する。						
4	ベビーシッターの実際② 鈴木		ベビーシッターとしてのマナーや基本姿勢を学ぶ。						
5	ベビーシッター概論① 細川		在宅保育の現状保育形態の変容と課題について学ぶ。						
6	ベビーシッター概論② 細川		産後ケア、病児・病後児保育、障害児保育サービスにおける実態と留意点を理解する。						
7	ベビーシッター概論③ 細川		グループ保育、学童保育、夜間・宿泊を伴う保育サービスにおける実態と留意点を理解する。						
8	保育マインドと子育て支援 細川		在宅保育における保育の考え方、保育マインドを理解する。家族のニーズへの理解とカウンセリングマインドを理解する。						
9	在宅保育のリスクマネジメント 細川		在宅保育における事故の発生箇所とその予防策について理解する。						
10	子どもの保健 鈴木		在宅保育における健康管理に必要な知識と技術を学ぶ。						
11	子どもの発達 鈴木		新生児期から学童期の子どもの発達過程と障害について理解する。						
12	子どもの栄養 鈴木		新生児期から学童期の子どもの栄養と食事の方法、食育について学ぶ。						
13	ベビーシッターの保育技術① 鈴木		子どもの発達段階や生活環境に応じた関わり方を学ぶ。						
14	ベビーシッターの保育技術② 鈴木		子どもの発達段階や生活環境に応じた日常生活援助を学ぶ。						
15	模擬保育 鈴木		実際に、シッター役になり、これまで学習したことを活かしてベビーシッターを行ってみる。						
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	50%	実技試験	50%		
【教科書】家庭訪問保育の理論と実際 第2版(中央法規)									
【参考書】									
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】既習してきた内容を用いながら、復習を行ってください。									
【本講義に関する質問先】				担当教員		【質問方法】		教員室にて	

授業名： 子どもの生活と遊び(表現と運動)Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2	
鍋山 友子	高等学校 36年勤務	鍋山	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 2	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 1年次で修得した知識や技術をもとにさまざまな表現活動や運動遊びの援助ができるよう、必要な知識や身体表現の技能をさらに高め、定着させる。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 コミュニケーション技術 遊びの展開技術		
【学習目標(到達目標)】 ①保育の内容を理解し身体表現の表現活動に関する知識や技術を習得する。 ②表現活動教材等の活用及び、具体的展開のための実践技術を習得する。 ③リズムカルな動きと、自由に表現できるテクニックを習得する。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	ガイダンス ストレッチ体操 ジャズダンス		授業内容及び準備物・服装・評価方法の確認 ①ファイティングテンプレーションを4分の1まで覚える。				
2	ストレッチ体操 縄跳び ジャズダンス		②ファイティングテンプレーションを2分の1まで覚える。 ①の続きをスローテンポで正確に覚え②の順序を確認する。				
3	ストレッチ体操 縄跳び ジャズダンス		③ファイティングテンプレーションを4分の3まで覚える。 ②の続きをスローテンポで正確に覚え③の順序を確認する。				
4	ストレッチ体操 縄跳び ジャズダンス		④ファイティングテンプレーションを最後まで覚える。 ①～③そして④へと繋がる振り付け順序を確認し、覚える。				
5	ストレッチ体操 縄跳び ジャズダンス		ファイティングテンプレーションを通して練習する。 難しい箇所を重点に練習し、振り付け順序をしっかりと把握する。				
6	ストレッチ体操 縄跳び ジャズダンス		ファイティングテンプレーションの踊り込みをする。 速いテンポに慣れるよう、反復練習を徹底する。				
7	ストレッチ体操 縄跳び ジャズダンス・到達度確認		ファイティングテンプレーションをリズムカルに、伸びやかに踊る。 しっかりと練習した後に到達度を確認する。				
8	ストレッチ体操 即興表現 ①彫刻②ミラー遊び		①彫刻②ミラー遊びをテーマに自由に表現する。 1人～2人、そして5人へと人数を増やしながら表現していく。				
9	ストレッチ体操 即興表現 ③エアー楽器遊び④私は新聞紙		③エアー楽器遊び④私は新聞紙をテーマに自由に表現する。 2人組からグループ単位でテーマに沿って表現し、合評会を行う。				
10	ストレッチ体操 即興表現 ⑤ポーズ遊び⑥もしものカード		⑤ポーズ遊び⑥もしものカードに合うストーリーを作り、創作する。 グループ単位で創作発表をした後に合評会を行う。				
11	ストレッチ体操 即興・創作ダンス ⑦一日の始まり⑧かぼちゃのつるが		⑦一日の始まり⑧詩かぼちゃのつるがをテーマにストーリーを創作する。 グループ単位で創作発表をした後に合評会を行う。				
12	ストレッチ体操 創作ダンス ⑨春夏秋冬		⑨春夏秋冬のテーマで題材を選び、創作する。 グループ単位で2つのテーマを選んで創作する。				
13	ストレッチ体操 創作ダンス ⑨春夏秋冬		⑨春夏秋冬のテーマで題材を選び、創作する。 2つのテーマのストーリーと曲想に合った振り付けを考える。				
14	ストレッチ体操 創作ダンス ⑨春夏秋冬		⑨春夏秋冬の創作、完成を目指す。 最初から通して踊り、改善点を探る。				
15	ストレッチ体操 発表会 ⑨春夏秋冬		⑨春夏秋冬創作、完成した作品の踊り込みを行なう。 発表会の後に合評会を行う。				
期末試験	身体表現・発表力等の実技及び演習レポート・縄跳びで評価する。		評価方法	実技試験	70%	受講態度	10%
				レポート	20%		
【教科書】特に使用しないが、必要に応じて資料を配付する。							
【参考書】保育の中の運動遊び(萌文書林) 保育内容「表現」(杏林書院)							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ジャズダンスの振り付け確認と踊り込みの復習に力を入れること。							
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】		教員室にて

授業名: 子どもの生活と遊び(音楽とリズム)Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2
熊田 桂子	一般	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 1・2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 子どもの音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を習得する。このために、特に伴奏法について習得する。また、音楽表現ⅠAと同様に、音に親しむ保育の環境、遊びの展開について学ぶ。					【受講して得られる力】 遊びの展開技術	
【学習目標(到達目標)】 ①音楽表現ⅠAから引き続きレパートリーを増やし、様々な曲を演奏できるようにする。 ②季節や生活にかかわる歌やわらべ歌を覚え、歌えるようにする。 ③様々な子どもの歌のピアノ伴奏を弾けるようにする。						
【履修上の注意】実技の練習をできる限り毎日練習するように努めてください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	授業内容、目的、授業の進め方について理解する。 音楽とリズムⅠの復習。				
2	4月のうた①	楽譜の読み方の復習。リズム読み。4月のうたを歌う。 子どもの曲を弾き歌いで練習する。				
3	4月のうた②	リズム読み。音程の度数について学ぶ。4月の歌を歌う。 リズム打ちながら、子どもの歌を歌う。				
4	5月のうた①	2、3、6、7度音程について学ぶ。 5月のうたを歌う。新しい子どもの曲をピアノで練習する。				
5	5月のうた②	1、4、5、8度音程について学ぶ。 5月の歌を歌う。簡易楽器の合奏を加えながら子どもの歌を歌う。				
6	6月のうた①	音程についての練習問題を解きながら、理解を深める。 6月のうたを歌う。子どもの歌をピアノで弾けるように仕上げる。				
7	6月のうた②	音階の仕組みについて理解する。 6月のうたを歌う。新しい曲をピアノで練習する。				
8	7月のうた①	音階と調性について理解する。 7月のうたを歌う。引き続きピアノを練習する。				
9	7月のうた②	7月のうたを歌う。音程と和音の仕組みについて理解する。 コード弾きをできるようにする。ピアノで弾き歌いの練習をする。				
10	8月のうた①	8月のうたを歌う。 ピアノで弾き歌いの課題に取り組む。				
11	8月のうた②	8月のうたを歌う。 ピアノで弾き歌いの課題に取り組む。				
12	9月のうた①	9月のうたを歌う。 実技発表の発表曲の決定と練習をする。				
13	9月のうた②	9月のうたを歌う。 実技発表の曲の練習をする。				
14	課題練習	実技発表に向けて課題曲・自由曲を練習する。				
15	課題練習	実技発表に向けて課題曲・自由曲を練習する。				
期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度	20%	筆記試験	40%
	実技試験		実技試験	40%		
【教科書】保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付(カワイ出版) 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ジュニアクラスの楽典 テキスト・ワーク(デプロMP)						
【参考書】いろいろな伴奏で弾ける選曲 こどものうた100(チャイルド本社)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】ピアノの練習を少しでもいいのでできるだけ毎日練習すること。楽典のテキスト・ワークの授業で行った内容を進めておくこと。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	kumachan@y2.dion.ne.jp	

授業名： 子どもの生活と遊び(音楽とリズム)Ⅲ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	1
熊田 桂子	一般	細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 1	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 音楽とリズムⅡに引き続き音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基本的知識と技術を習得する。また身近な音や音楽に親しむ経験を通して保育環境の構成を、さらに子どもの経験と音楽表現とを関連づける遊びの展開を習得する。					【受講して得られる力】 遊びの展開技術	
【学習目標(到達目標)】 ①様々な音楽遊びを体験し、乳幼児期の発達に合わせた音楽遊びの展開例を知る。 ②様々なアイデアや工夫によって、音や音楽遊びを取り入れた指導案を作成できるようにする。 ③自分自身の表現力も豊かにしていく。						
【履修上の注意】実技の練習をできる限り毎日練習するように努めてください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	オリエンテーション		授業内容、目的、授業の進め方について理解する。 これまでのピアノの実技の復習。			
2	音探検		環境の中の「音」について考え、どんな音があるか音探しをする。 発見した音から、音楽遊びへを発展させる。			
3	音からイメージへ		音を聴き、感じたものを色や形などでイメージし、絵で表す。 次にイメージした絵や図から、音へ変換し、楽器で演奏する。			
4	子どもの音楽と遊びの関係		音楽が、乳幼児期の発達に対し、どんな関わりや意義があるかを考える。 そのための保育者の役割を考える。			
5	リトミック		音やリズムを感じて、体で表現する。 子どもの歌に合わせて体を動かす。			
6	手遊び作り		知ってる手遊びの確認する。 子どもの歌の幼児の発達に即した手遊びを考える。			
7	即興リズムアンサンブル		簡易楽器、ハンドベルやドレミパイプを使ってリズム遊びの展開例を考える。 楽譜がなくても即興的な合奏を体験し、リズムの重なりを楽しむ。			
8	ボディーパーカッション		体を使ったリズム遊びをする。 体を使って音を出し、リズム合奏をする。			
9	手作り楽器		身近な材料で楽器を作ってみる。 手作り楽器で音を出して遊ぶ。			
10	アンサンブルを楽しむ		手作り楽器や簡易楽器を使った遊びを学ぶ 簡易楽器による合奏を楽しむ。			
11	模擬保育と振り返り①		音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。 発表について振り返りをする。			
12	模擬保育と振り返り②		音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。 発表について振り返りをする。			
13	模擬保育と振り返り③		音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。 発表について振り返りをする。			
14	模擬保育と振り返り④		音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。 発表について振り返りをする。			
15	模擬保育と振り返り⑤		音楽遊びを取り入れた指導案を作り、発表する。 発表について振り返りをする。			
期末試験	評価方法		受講態度	50%	発表会の結果	50%
【教科書】わくわく音遊びでかんたん発表会—手拍子ゲームから器楽合奏まで(鈴木出版)						
【参考書】保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付(カワイ出版) 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育(教育芸術社)						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】ピアノの練習をする。普段から音楽と結びつけた音楽遊びを考えておく。授業内で出た課題は期限までにやっておく。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	kumachan@y2.dion.ne.jp	

授業名： 入門臨床美術

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2		
大城 泰造		一般	細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
				【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】				【受講して得られる力】				
製作した美術作品を通して、一人ひとりの参加者にそった働きかけをすることを学び、その人の意欲と潜在能力を引き出す技法を修得することを目的とする。また、同時に臨床美術士5級の取得をめざす。				発達援助技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術 環境構成技術				
【学習目標(到達目標)】								
①病院や施設で実践されている臨床美術の基本的な知識と技術を表現できる。 ②実際に美術制作を行うことにより、創造性をもってアートを理解することができる。 ③ロールプレイングによってコミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルが獲得でき、福祉職に限らず企業においてなど様々な形で社会に活かすことができるようになる。								
【履修上の注意】 受講人数等のやむをえない事情により、シラバスの内容を一部修正する可能性があります								
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	ガイダンス		臨床美術論ガイダンス 講義計画全体やこの講義の位置付け、臨床美術士の資格について説明します					
2	臨床美術の基幹①		臨床美術／基幹・チーム作り 授業のテーマ・目的や授業プラン、評価についてテキストをもとに説明し、チーム分けを行います					
3	臨床美術の基幹②		臨床美術／基幹 臨床美術の歴史、理念について学びます。基本的な画材の使用方法についても学びます					
4	臨床美術入門①		臨床美術入門/アナログ画 概念的な絵にならず自由に絵を描くとはどういうことかを実際に制作を通して学びます					
5	臨床美術入門②		臨床美術入門/ジェスチャー画 動きを素早く捉える方法、モチーフの捉え方についてクロッキーを通して学びます					
6	臨床美術入門③		臨床美術入門/量感画 ものを実感するとはどういうことかについて、林檎をモチーフに制作を通して学びます					
7	臨床美術入門④		臨床美術入門/立体造形カボチャ1 2Dから3Dの制作を通して、新聞と和紙を用いた立体作品の制作方法を学びます					
8	臨床美術入門⑤		臨床美術入門/立体造形カボチャ2口 2Dから3Dの制作を通して立体作品の完成と作品のプレゼンテーションの方法を学びます					
9	臨床美術入門⑥		臨床美術入門/修正輪郭画口 純粋輪郭画法、修正輪郭画法を通して学びます					
10	存在論的人間観		存在論的人間観口 臨床美術の理念となる人間へのまなざしを存在論的人間観を通して学びます					
11	コミュニケーションスキル①		臨床美術／コミュニケーション アートを通じたコミュニケーションの可能性について学びます					
12	コミュニケーションスキル②		臨床美術／コミュニケーション 鑑賞会を通して自己肯定、効力感を高めるコミュニケーションスキルについて学びます					
13	臨床美術実践の基礎①		臨床美術／実践の基礎1口 粘土を用いたアートプログラムについて学びます					
14	臨床美術実践の基礎②		臨床美術／実践の基礎2口 これまで学んだアートの技法、コミュニケーションスキルを活かした共同制作を行います					
15	臨床美術実践の基礎③		臨床美術／実践の基礎3 これまで学んだアートの技法、コミュニケーションスキルを活かした共同制作を行います					
期末試験			評価方法	課題の達成度	70%	受講態度	30%	
【教科書】								
【参考書】 臨床美術士養成講座5級取得コーステキスト(芸術造形研究所) 臨床美術のすすめ(日本臨床美術協会)								
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 ロールプレイングではグループによる事前打ち合わせ、参考作品制作、プレゼンのリハーサル、反省会など予習復習をすること。								
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】				メール連絡

授業名: 保育実習 I (施設)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2
		細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	80時間
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 4
【授業の概要】 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。また、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学びながら、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】		保育実習では、社会人としてのマナーが身につけていること、最低限の知識や技能を習得していることが前提となるため、これらを満たしていない場合には、実習制限処置が取られることもあるので十分注意すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1		1. 施設の役割と機能 (1)施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2)施設の役割と機能 2. 子どもの理解 (1)子どもの観察その記録 (2)個々の状態に応じた援助や関わり 3. 施設における子どもの生活と環境 (1)計画に基づく活動や援助 (2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (3)子どもの活動と環境 (4)健康管理、安全対策 4. 計画と記録 (1)支援計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理				
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
期末試験		評価方法	施設の評価	70%	学校の評価	30%
【教科書】		実習の手引き・福島県保育実習施設 (福島県保育者養成校連絡会) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(チャイルド本社)				
【参考書】		学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林) 保育で役立つ! 0~5歳児の手あそび・うたあそび(ナツメ社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

授業名： 保育実習Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2
		細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	80時間
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 2
【授業の概要】 今までの学びと、保育実習Ⅰを踏まえ、保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めるとともに、子どもの保育や保護者支援についても総合的に学ぶ。また、実際に、計画、実践、観察、記録などについて取り組み、保育士としての職業倫理についても実践を通して理解を深める。				【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ③既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ⑥実習における自己の課題を明確化する。				前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術		
【履修上の注意】		保育実習では、社会人としてのマナーが身につけていること、最低限の知識や技能を習得していることが前提となるため、これらを満たしていない場合には、実習制限処置が取られることもあるので十分注意すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1		<ol style="list-style-type: none"> 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> 養護と教育が一体となって行われる保育 保育所の社会的役割と責任 観察に基づく保育の理解 <ol style="list-style-type: none"> 子どもの心身の状態や活動の観察 保育士等の援助や関わり 保育所の生活の流れや展開の把握 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> 環境を通して行う保育, 生活や遊びを通して総合的に行う保育 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 関係機関や地域社会との連携・協働 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 <ol style="list-style-type: none"> 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> 多様な保育の展開と保育士の業務 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 自己の課題の明確化 				
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
期末試験		評価方法	施設の評価	70%	学校の評価	30%
【教科書】	実習の手引き・福島県保育実習施設（福島県保育者養成校連絡会） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(チャイルド本社)					
【参考書】	学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林) 保育で役立つ! 0～5歳児の手あそび・うたあそび(ナツメ社)					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

授業名: 保育実習指導Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2
田母神 知加子 ¹⁾ ・勝見 恵子 ²⁾		細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
幼稚園・保育所 1)11年勤務 2)30年勤務			【曜日・コマ】	金 4	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 保育実習による総合的な学びとなるよう、今までの学びと保育実習Ⅰでの学びを関連させながら、保育実践力を培う。また保育現場の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、附属保育所における実践などを通して学び、保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習後は実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					【受講して得られる力】 環境構成技術 発達援助技術 生活援助技術 コミュニケーション技術 遊びの展開技術	
【学習目標(到達目標)】 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。						
【履修上の注意】		本科目が不合格の場合は、実習Ⅲは実施できないため十分注意してください。また、保育実習Ⅰが終了していない場合においても、実習Ⅲは実施できません。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	実習Ⅱの意義と方法	実習の目的と概要 保育実習Ⅰを踏まえた実習の目的と内容を理解する。				
2	保育実践力の育成(模擬保育)①	教材研究① ピアノや手遊びを通して総合保育の実践力を身につける。				
3	保育実践力の育成(模擬保育)②	教材研究② わらべ歌や幼児体操を通して総合保育の実践力を身につける。				
4	保育実践力の育成(模擬保育)③	教材研究③ 製作遊びを通して総合保育の実践力を身につける。				
5	保育実践力の育成(模擬保育)④	教材研究④ 歌や楽器を通して総合保育の実践力を身につける。				
6	保育実践力の育成(模擬保育)⑤	教材研究⑤ 運動遊びを通して総合保育の実践力を身につける。				
7	保育実践力の育成(模擬保育)⑥	教材研究⑥ 年齢に合わせた総合保育の実践力を身につける。				
8	保育実践力の育成(模擬保育)⑦	教材研究⑦ 年齢に合わせた総合保育の実践力を身につける。				
9	指導計画案の書き方	総合実習の指導計画の立案を学ぶ。				
10	実習記録の書き方	総合実習の記録の書き方を学ぶ。				
11	附属保育所実習①	学園附属保育所における観察・参加実習				
12	附属保育所実習②	学園附属保育所における部分実習				
13	附属保育所実習③	学園附属保育所における総合実習				
14	実習事前指導	日誌などの書類整理 実習に向けての最終確認				
15	実習事後指導	自己課題の明確化				
期末試験	実技試験	評価方法	受講態度	40%	実技試験	30%
			課題の達成度	30%		
【教科書】実習の手引き(福島県保育者養成校連絡会) フォトランゲージで学ぶ・学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林) 保育で役立つ! 0~5歳児の手あそび・うたあそび(ナツメ社)						
【参考書】保育所保育指針解説(厚生労働省)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 保育実習Ⅲ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2
		細川	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	80時間
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 2
【授業の概要】 今までの学びと、保育実習Ⅰを踏まえ、児童福祉施設の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深めるとともに、子どもの支援や保護者支援についても総合的に学ぶ。また、実際に、計画、実践、観察、記録などについて取り組み、保育士としての職業倫理についても実践を通して理解を深める。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術 遊びの展開技術 コミュニケーション技術	
【履修上の注意】		保育実習では、社会人としてのマナーが身につけていること、最低限の知識や技能を習得していることが前提となるため、これらを満たしていない場合には、実習制限処置が取られることもあるので十分注意すること。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1		1. 児童福祉施設(保育所以外)の役割と機能 2. 施設における支援の実際 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)のニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子ども(利用者)の家族への支援と対応 (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働 (6) 地域社会との連携・協働 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化				
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
期末試験		評価方法	施設の評価	70%	学校の評価	30%
【教科書】		実習の手引き・福島県保育実習施設(福島県保育者養成校連絡会) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(チャイルド本社)				
【参考書】		この子を受け止めて、育むために 育てる・育ちあうとなみ(全社協・全国児童養護施設協議会) 学びつづける保育者をめざす実習の本(萌文書林)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

授業名： 保育実習指導Ⅲ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	こども未来学科	【学年】	2
細川 梢	児童福祉施設 7年勤務	細川	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 4	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 保育実習による総合的な学びとなるよう、今までの学びと保育実習Ⅰでの学びを関連させながら、保育実践力を培う。実習後は、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 発達援助技術 生活援助技術 環境構成技術	
【学習目標(到達目標)】 ①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ④実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。						
【履修上の注意】	本科目が不合格の場合は、実習Ⅲは実施できないため十分注意してください。また、保育実習Ⅰ(施設)と実習時期が前後する場合があります。実習の時期に応じて、実習の目的を確認しましょう。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	保育実習Ⅰを踏まえた実習の目的と内容を理解する。				
2	保育実践力の育成	事例を基に、児童の状況に応じた生活支援や対応を考える				
3	保育実践力の育成	事例を基に、児童の状況に応じた生活支援や対応を考える				
4	保育実践力の育成	事例を基に、児童の状況に応じた生活支援や対応を考える				
5	保育実践力の育成	事例を基に、児童の状況に応じた生活支援や対応を考える				
6	自立支援計画の立案	映像を通して、社会的養護を必要とする子どもたちの自立を考える。幼児の発達過程を踏まえ、幼児の基本的な生活習慣の自立を考える。				
7	自立支援計画の立案	自分自身の生活を振り返りながら、小学児童の基本的な生活習慣の自立を考える。				
8	自立支援計画の立案	自分自身の生活を振り返りながら、中学・高校児童の基本的な生活習慣の自立を考え、自立支援計画を立案する。				
9	学外ボランティア活動(学童期)①	ボランティア活動と記録を通して、子ども理解を深める。				
10	学外ボランティア活動(学童期)②	ボランティア活動と記録を通して、子ども理解を深める。				
11	学外ボランティア活動(児童福祉施設)①	ボランティアの活動と記録を通して、施設保育士の役割を考える。				
12	学外ボランティア活動(児童福祉施設)②	ボランティアの活動と記録を通して、施設保育士の役割を考える。				
13	ボランティア活動のまとめ	活動の取り組み内容や記録を振り返り、実習までの改善点を理解する。				
14	実習直前学習	実習に向けての最終確認を行う。				
15	実習事後学習	自己評価と実習先評価、疑問点について個別的に助言を受ける。今後に向けた課題を明確化する。				
期末試験	レポート	評価方法	受講態度	50%	レポート	40%
			課題の達成度	10%		
【教科書】実習の手引き・福島県保育実習施設(福島県保育者養成校連絡会) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(チャイルド本社) この子を受け止めて、育むために 育てる・育ちあういとなみ(全社協・全国児童養護施設協議会)						
【参考書】子どもと社会的養護の基本(学文社)						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】		本、ニュース、ボランティアなどを活用し、学童期以降の子どもたちの発達理解を深めましょう。生活を支援する者になるために、日頃の生活から自己管理や生活力向上に努めましょう。				
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			